

## 第 15 回石橋湛山新人賞候補作品推薦要項

1. 推薦作品について：昨 2021 年 10 月より本 2022 年 9 月までの間に発表された博士課程および修士課程の大学院生執筆の論文や評論などの言論作品をご推薦下さい。大学・大学院・研究所・学会などが発行している公式な刊行物（論文集など）に掲載された作品に限定いたします。政治・経済・外交・文化などの領域において自由主義・民主主義・平和主義の考え方に沿った優れた作品で、石橋湛山新人賞に相応しいとお考えのものをお願いいたします。
2. ご留意いただきたい点：
  - ① 広く一般の読者にも理解し・読み易い論文であること、
  - ② 新たな視点があり、現下の政治・経済・社会（教育・文化を含む）などの課題に真正面から取り組み、一定程度啓蒙的であること、
  - ③ よく考えられた論文であること、
  - ④ 論理構成がしっかりとしていること、
  - ⑤ 執筆者（大学院生）の極めて特定の領域に限られた研究書または学者間の論争に類するものは避けられたいこと、など。
3. ご回答は、同封の用紙にてお願いいたします。書き切れない場合は、別紙をご利用いただいても結構です。また、メールやファックスによるご回答も受け付けております。
4. ご回答は、2022 年 11 月末日までに頂戴いたしたく存じます。

今回、ご推薦をお願いいたしましたのは、国公立大学の学長・研究科長・学部長、人文社会科学系の学会の幹部、有力研究所の研究所長もしくはそれに準ずる方々でございます。

以上

一般財団法人 石橋湛山記念財団事務局

〒103-8345 東京都中央区日本橋本石町 1-2-1 東洋経済ビル 7 階

電話・ファックス 03-3270-8070

E メール zai.tanzanzaidan@juno.ocn.ne.jp

## 第15回「石橋湛山新人賞」授賞候補作品推薦状

推薦者のお名前 .....

ご勤務先・ご職業 ..... 所属・役職等 .....

推薦者のご住所 ..... (勤務先・自宅)

推薦者の電話番号 ..... (勤務先・自宅)

E-MAIL ADDRESS .....

1. 推薦作品の題名

.....

2. 推薦作品の執筆者氏名及び所属 (大学院生)

.....

3. 掲載されている誌名・発行所 (大学、研究所、学会など)

.....  
(2021/22年 月刊: 2021年10月から2022年9月の間)

(大変恐縮ですが、掲載されています論文集を財団まで1冊(抜き刷り可)お送りください。PDF ファイルをメールでお送り頂くことも可能です。アドレスは、[zai.tanzanzaidan@juno.ocn.ne.jp](mailto:zai.tanzanzaidan@juno.ocn.ne.jp)です。

お送りいただけなかった場合は、選考不可能なため授賞対象から外させていただきます)

4. ご推薦の趣旨 (別紙利用可)

まことに恐れ入りますが、ご回答は2022年11月末日までに頂戴いたしたく存じます。

## 『石橋湛山新人賞』歴代授賞作品及び受賞者名

| 回   | 年度     | 授賞者    | 上段：所属（授賞時）、下段：論文名  |
|-----|--------|--------|--|
| 第1回 | 2008年度 | 伊藤真利子氏 | 青山学院大学大学院総合文化政策学研究所博士課程<br>「郵便貯金の民営化と金融市場—金融変革期における郵便貯金」<br>(青山学院大学社会科学紀要)   |
| 第2回 | 2009年度 | 水口由美氏  | 慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修士課程<br>「社会的入院に関する総合的レビューとその要因モデルの構築」<br>(慶應義塾大学大学院 KEIO SFC JOURNAL)                                 |
| 第3回 | 2010年度 | 丸尾美奈子氏 | 早稲田大学大学院商学研究科博士後期課程<br>「オーストラリアの年金制度について」<br>(早稲田大学大学院商学研究科紀要)   |
| 佳作  |        | 濱井潤也氏  | 広島大学大学院文学研究科博士後期課程<br>「マイケル・ウォルツァーの正戦論における道徳性について」<br>(広島大学大学院ぷらくしす)   |
| 第4回 | 2011年度 | 宮古文尋氏  | 上智大学大学院 文学研究科史学専攻博士後期課程<br>「日清戦争以後の清朝対外連携策の変転過程」<br>(東洋學報『東洋文庫和文紀要』)   |
| 第5回 | 2012年度 | 劉守軍氏   | 京都大学大学院 人間・環境学研究科博士後期課程<br>「宇都宮徳馬の思想史的研究」<br>(京都大学人間・環境学第二〇号)  |
| 第6回 | 2013年度 | 壺田智子氏  | 上智大学大学院 文学研究科史学専攻博士後期課程<br>「アレクサンダー・フォン・シーボルトと黄禍論」<br>(上智史學第57号)   |
| 第7回 | 2014年度 | 授賞作品なし |  |
| 佳作  |        | 加藤恭子氏  | お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科博士課程<br>「二〇世紀初頭における、中国への日本の女子教員派遣と『東洋婦人会』—中国の女子学校教育の実施にむけた協力活動について—」<br>(『お茶の水史学』第57号お茶の水女子大学読史会) |
| 第8回 | 2015年度 | 授賞作品なし |  |
| 第9回 | 2016年度 | 井上弘樹氏  | 青山学院大学大学院 文学研究科史学専攻博士後期課程<br>「台湾における寄生虫症対策と日本の医療協力 — (一九六〇年代から一九七〇年代)」<br>(『史学雑誌』第125編第8号)                               |

|      |        |        |  |
|------|--------|--------|--|
| 第10回 | 2017年度 | 向山直佑氏  | 東京大学法学政治学研究科博士課程<br>「第三国による歴史認識問題への介入要因と帰結 — アルメニア人虐殺へのジェノサイド認定とトルコ —」<br>(日本国際政治学会編『国際政治』第187号)                   |
|      |        | 植村理氏   | 慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科博士課程<br>「自分の生き方に自信の無い母親 — 規定要因と考察 —」<br>(慶應義塾大学湘南藤沢学会『KEIO SFC JOURNAL』 Vol.16 No.2)            |
| 第11回 | 2018年度 | 川鍋健氏   | 一橋大学大学院法学研究科博士後期課程<br>「人民の、人民による、人民のための憲法<br>— アキル・リード・アマールの憲法論から —」<br>(『一橋法学』第17巻第2号)                            |
| 佳作   |        | 後藤倫子氏  | 同志社大学大学院博士後期課程<br>「ジェノサイド条約の成立におけるラファエル・レムキンの影響<br>— ジェノサイド条約の準備作業以前のラファエル・レムキンの条約構想の分析を通して —」<br>(『同志社法学』第70巻第2号) |
| 第12回 | 2019年度 | 田中美里氏  | 一橋大学大学院法学研究科博士後期課程<br>「フランスにおける『公序』とマニフェスタシオンの自由」<br>(『一橋法学』第18巻1号、2号)   |
| 佳作   |        | 布施豪嗣氏  | 慶應義塾大学大学院経済学研究科博士課程<br>「石橋湛山の経済理論— 古典派的側面を中心に—」<br>(『経済史学研究』第60巻第2号)   |
| 第13回 | 2020年度 | 授賞作品なし |  |
| 第14回 | 2021年度 | 谷京氏    | 一橋大学大学院法学研究科博士後期課程<br>「日朝貿易に関する日本政府の政策決定：1960年代前半における直接輸送と直接決済の実現を中心に」<br>(『アジア経済』62巻3号、アジア経済研究所)                  |

注：( ) は掲載論文集名